

見えてきた 「日本十進分類法」新訂10版

分類研究分科会

代表 藤倉 恵一

(文教大学越谷図書館)



私立大学図書館協会東地区部会研究部

分類研究分科会

第一部 活動報告



分科会の基本テーマ

- 図書分類法に限らず，件名標目，シソーラス，インデクシング理論など広義の分類法の理論的研究
- 「分類を研究する」基本姿勢
実務を優先し理論を軽視する姿勢が実は業務がうまくいかない元凶でないか？（中略）基礎を固めない実務はすぐ行き詰る。
－田窪直規氏（近畿大学教授）
J. Mills著，吉田暁史・田窪直規ほか著「資料分類法の基礎理論」序論より

知識の組織化（Knowledge Organization）は図書館の基礎である



今期の基本テーマ

- 「その分類，大丈夫ですか？」
 - NDC10版試案の検討・検証（継続）
 - NDCと図書館実務について
われわれの仕事の根幹である分類をおろそかにしていないか
 - 「日本の標準」を掘り下げる
本当に21世紀の主題や出版事情に対応できる日本の標準分類法たりえるのか

今期の活動

- 2012年4月～10月 **基礎研究**
もり・きよし「NDC入門」精読
- 2012年11月～2013年3月 **分類用語検討**
DDC Glossaryや各種の用語解説比較検討
- 2013年4月～12月 **10版試案検討・検証**
図書館雑誌に掲載された10版試案の検討
- 2014年1月～3月 **研究の総括**
意見書のまとめと提出

組織概要

- 会員 8名（うちML会員2名，個人会員2名）
- 月例会 10回／年（8月・1月休会）
- 夏期研究合宿
 - 2012年度 ラヴィエ川良（静岡県伊東市）
テーマ「わが国における図書分類法の黎明」
 - 2013年度 道の駅ろまんちっく村（栃木県宇都宮市）
テーマ「NDC10版試案の効果検証」

今期の特別活動

- TP&Dフォーラム（整理技術・情報管理等研究集会）共催
 - 2012年8月19日～20日（京都） 3名参加（発表）
 - 2013年8月23日～24日（横浜） 3名参加
- NDC10版試案説明会（2013年11月）への出席
 - 月例会を同日午前中に開催
- 日本図書館協会分類委員会に意見書提出（1月）
 - 分科会の成果をNDC改訂につなげる道筋

第二部 研究発表



これまでの研究（2007年度以前）

- NDC9版の時代の提言
 - 説明会の開催時の代表質問（分科会ほか研究団体）
 - 日本図書館研究会整理技術研究グループによる批判
- 10版試案に対して（いまの分類研究分科会の役割）
 - 試案説明会への出席
 - 公的な場（研究分科会報告大会）で批評の発表
 - 研究発表にもとづく「意見書」の提出

→ 改訂支援

これまでの研究（2008～2011年度）

- 研究の内容
 - 10版改訂試案の概要の検討
 - 改訂試案の効果測定
 - 改訂によって、既存の出版物がどの程度分類変更を要するか・適切に細分されたか
 - NDC全体で改善が必要と思われる点の抽出
 - 検討から見えてきた、NDC全体の問題点

詳しくは分科会ホームページ，協会報参照

分類委員会への「意見書」提出

- 第1次意見書 2007年1月20日付
 - NDC全体に関すること
- 第2次意見書 2010年1月21日付（本論）
3月31日付（各類試案）
 - NDC試案にもとづく意見
- 第3次意見書 2012年2月1日付
 - 第2次意見書以降の検討について
- 第4次意見書 2014年1月～2月予定
 - 第3次意見書以降の検討について

NDC全体の問題点

- 改訂と補訂（補遺によるアップデートの充実）
- 記号の縮約の抑制
- 形式区分の優先順位について
- 注記の文章（形式）の定義・統一について
- 「人」を表現する補助表の必要性
(2010年・第2次意見書)
- 冊子構成の見直し
- 「解説」の改善
- 「人」を扱う際の問題点（再確認含む）
(2012年・第3次意見書)

NDC各論（各類試案）に対して

- 各類改訂案に対しての個別意見
（考慮・配慮を願うもの）
 - 0類 16項目 （第2次）
 - 1類 6項目 （第3次）
 - 2類 7項目 （第2次）
 - 3類 26項目 （第2次）
 - 5類 12項目 （第3次）
 - 7類 11項目 （第2次）

分類委員会からの回答

- 第1次意見書への回答 2007年3月2日付
 - 疑問点への回答
 - これがきっかけで分類委員会に分科会が関与
- 第2次意見書への回答 2010年3月9日付
 - 要望すべてではないが検討事項の確認
 - 各類への意見は担当者に回付
- 第3次意見書への回答 2012年2月28日付
 - NDC10版本体（構成）への影響が大きい

今期（2012～2013年度）の研究対象

- 研究対象

- 2012年7月公開 8類「言語」の部
- 2013年1月公開 4類「自然科学」の部
- 2013年3月公開 9類「文学」の部
- 2013年10月公開 6類「産業」の部 (※)
- 2013年11月公開 「情報学」の部 (※)

※この2つの試案は、分類委員会より公表前に提供を受けた

試案が公開された後に分科会月例会で検討すると報告大会での発表に間に合わず、また10版刊行前に意見書を出すことができなくなるため分類委員会に要請し、提供について合意された分科会からは、6類検討結果を委員会に速報で提出した情報学は藤倉が担当していたため、公表前に問題点に対応した

試案検討の手法

- 図書館雑誌掲載版の試案
- 分類委員会ホームページ掲載の試案（詳細版）
- 日本十進分類法新訂9版（14刷以降）
- 「NDC9版を考える」（図書館界1992～1995）

など

- 10版試案を9版の細目表と比較し，妥当性や問題点を検討
- 9版試案への批評を参考に，9版試案での問題点が改善・解消されているか

試案効果検証の手法

- NDL-OPACを用いて4, 8, 9類の出版物（2012年および2002年）を対象に試案を適用
 - 前期以前は最新およびその10年前の「出版年鑑」を用いていた
 - どの程度の数量に差異が生じたか
 - 適切に区分できないものが存在しないか
 - 改訂が有意義かどうか

各分類試案の検証：4類 自然科学

- 主な改訂箇所
 - 490 医学
 - 用語の現代化
 - 493.7 精神医学
 - 医学分類をもとにした構成のみなおし
 - 497 歯科学
 - 基礎歯科学の細分化

見直さなかった箇所もある（植物分類や薬学など）

4類の問題点

- 「博物学誌」「自然誌」を462に集める指示
 - 従来の実績を考慮したというが、NDL-OPACでは特に自然誌は402.9に実績として多い
 - そもそも「博物学」は気象や地質を含む概念だから4類の総記にあるのが適切ではなかったか
- 492.92 看護学（対象別看護）の構造
 - 「人」（母子，小児，老人など）と「科」（精神科，婦人科）が混在している
 - しかも「癌」や「外科」などに対応するものがない
 - 中間見出しなどで整理が必要でないか
- 490は抜本の見直しの必要がないか

各類試案の検証：6類 産業

- 主な改訂箇所
 - 610 / 660 農林水産業
 - 記述の統一化
 - 645.9 愛玩動物 [ペット]
 - 位置づけの明確化
(従来は犬645.6と同一に扱われていた)
 - 647 みつばち, 昆虫 (の飼育; 二者択一)
 - 646.9に一本化し, 647は削除項目に
 - 将来的に630蚕糸業の整理の検討もありえる

6類の問題点

- 注記の文章の不統一感
 - 6類に限ったことではないが、特に6類では顕著
 - 定型化された注記（note）というより、範囲注記（scope note；解説文）に近い文章が散見される
- 645 家畜・畜産動物各論
- 645.9 愛玩動物
 - 「645.6 犬」や「.7 猫」のような個々の動物のあとに一般論が置かれるのは、分類の原則に反する

各類試案の検証：8類 言語

- 主な改訂箇所
 - 言語共通区分を8類本表に組み込み
 - 固有補助表化か？
 - 中国語・韓国語
 - あらかじめ共通区分を組み込み，かつ下位を展開

各類試案の検証：9類 文学

- 主な改訂箇所
 - 文学共通区分を9類本表に組み込み
 - 固有補助表化か？
 - 910.265 平成時代（日本文学史）
 - 現代の日本文学研究に対応できるように新設
 - 913.61 / .65 時代別（明治以後の小説；別法）
 - 時代ごとに作品を収められる別法の新設

8・9類の問題点（共通）

- 共通区分の補助表は今後どうなるのか
 - 固有補助表になるのか，まだ一般補助表のままか
- 言語の集合，分類番号を共有する言語の下位展開の是非
 - 個々の言語は下位展開可能とするが，将来の拡張を妨げるものでないか

例：829.37 モン・クメール諸語：ベトナム語〔安南語〕

バナル語（モン・クメール諸語でありNDCに掲載がない）
や複数言語に対し「辞書」をつけ829.373とはできないが、
ベトナム語の辞書829.373は成立する，という委員会見解
将来，ベトナム語，カトウ語，バナル語などを下位展開する
際に829.37以下の番号が使用できなくなる

8類の問題点

- 「辞典」の定義
 - 形式区分「-033 辞典」と、言語共通区分「-3 辞典」との区別がどこでも定義されていない
- 言語共通区分の下位区分
 - 日本語, 中国語, 韓国語, 英語などで
共通区分にさらに加える形で展開されているもの
(例: 811.1の「発音」や814.4の「熟語・慣用語」など)
他言語に共通性のあるものを共通区分に組み込めないか
(例: -11 音声, 発音, -44 慣用語 などのように)

9類の問題点

- 「時代をまたがった人物」の位置づけ
 - 昭和・平成にかけて活躍した人物はどちらに分類するか指針がない
 - 昭和前期以前にも同様の問題はあるが、没後であればどこを中心とするか判断が比較的容易といえる
(時代・地域の横断はNDC全体にいえる問題)
- 「エッセイ」「ルポルタージュ」の主題と形式
 - 主題をもたないエッセイ, 専門家以外が書いた主題のある著作への指針
 - 形式区分「-049 随筆. 雑記」との定義

各類型案の検証：情報学および関連領域

007情報科学 / 547.48情報通信 / 548情報工学 / 694電気通信事業

- 主な改訂箇所
 - 「情報学」の語
 - 007と548の統合はしない
 - 基本的に9版の路線を踏襲
 - 別法により, 007または548に集中可能
 - 注記によってこの4箇所の判断を明確に
「観点が明確でないものは, ○○に収める」

各類型案の検証：情報学および関連領域

- 主な改訂箇所
 - 007.3 情報と社会
 - 情報倫理やSNSなど，現代事情にあわせた細分
 - 007.63 各種のソフトウェア
 - WordもExcelも，007.638の下位に項目設置
 - 548.29 各種のコンピュータと類似機器
 - 携帯電話（スマートフォン）のような多機能情報端末の置き場所の明確化
 - 694 データ通信産業
 - 007.3との使い分けの明確化

各類型案の検証：情報学および関連領域

・別法の対照関係

007 情報学、情報工学

.1 情報理論

.2 歴史・事情

.3 情報と社会

.4 (削除) 情報源

.5 ドキュメンテーション、情報管理

.6 データ処理、情報処理

.7 (削除) 情報システム

.8 [別法] 情報工学 (548)

.9 [別法] 情報通信 (547.48)

547 情報通信

.48 データ通信

548 情報工学

.1 [別法] 情報学、情報理論 (007.1)

.2 コンピュータ

.3 自動制御工学、オートメーション、ロボット

.5 [別法] 人間工学 (501.84)

.6 [別法] 生体工学 (491.3)

.7 シミュレーション

.9 [別法] 情報科学各論 (007, 007.2/.6)

情報学の問題点

- 注記や参照の追加について
 - 項目名, 小項目・関連項目に明示されていない各種の用語について

NDC全体に対する問題

- 注記に関すること（第2次意見書以降）
 - 指示は本来定型的であるべき
 - 適用の範囲を示すのはマニュアルの役割
- 補遺によるこまめなアップデート（第2次意見書）
 - 過去何度も（身内から）指摘がある
- 「部分的な完全改訂」は不可能か

「部分的完全改訂」の可能性

- たとえば医学（490）だけを完全改訂
 - 現代の事情や理論的整合性にあわせた改訂
データ修正，ラベルの貼り替えや書架移動は発生するが，医学専門分類を使わない図書館（たとえば看護，歯学系学科を持つ総合大学）の場合は特定箇所だけ分類が詳細になりすぎることを防ぐ
 - 再整理や書架移動をしないなら10版以前のまま窮屈なところは存在するが資料の増加だけを考慮すればよい

見えてきた「その分類」の将来

- 「2014年の刊行を目標としている」
(第2回試案説明会の案内文)
 - 何度となく遅れてきた刊行目標（今度こそ）
 - 4次にわたる分科会からの提言はどこまで活かされているか
 - 21世紀の図書分類法として適当なものか
 - 「次の改訂」はいつのことか

分科会の役割と目標

- 刊行されたNDCに対してわれわれができること
 - 問題点の洗い出し
 - 改善されなかった点の打開策
 - 「足りないもの」はなにか
 - われわれになにができるのか

来たるべき「11版」に向けて

次期分類研究分科会テーマ

日本十進分類法 新訂10版の「使い方」をさぐる

多数のご参加お待ちしております

